

質問

70代の男性です。検診で異常があると指摘を受け、精査の結果、前立腺がんとの診断でした。治療方法を相談する中で、手術や放射線外照射の他に、小線源治療があると知りました。小線源治療は、どんな治療ですか。

前立腺小線源治療とは



楠原 義人

徳島大学病院
泌尿器科助教

回答

前立腺がんは男性で一番多いがんです。治療方法は手術と、放射線、ホルモン治療です。放射線治療は二つの方法があります。前立腺の外から照射する外照射と、前立腺の内から照射する内照射です。この内照射が小線源治療です。短期間の入院で、身体の負担が少ない治療です。徳島県内では徳島大学病院と徳島市民病院で行っています。

3泊4日の入院になります。腰から針を刺し、下半身だけ麻酔します。治療時間は2時間です。放射線を出す線源(50〜100個)を、前立腺に埋め込みます。線源は5ミリほどで、チタン製です。治療後は、ベッド上で安静にします。治療翌日から食事や歩行ができません。

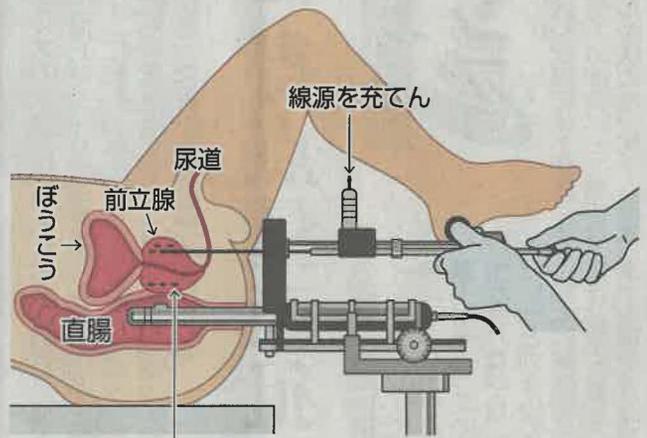
手術で装着 内部から放射線



退院直後から日常生活に戻れます。ただし、埋め込んだ直後は注意点があります。乳幼児や妊婦へ配慮が必要で、長時間の接触は控えます。とはいえ成人への影響は軽

微で、同居者への心配はありません。線源から出る放射線は、次第に弱ま

前立腺がんの小線源治療



挿入された線源

がん何でもクイズ

がんの治療への応用が期待される〇〇細胞。〇〇〇には何が入るか。

- ①PS5②iPS③PTA

行こうよ！がん検診

ります。小線源治療の1年後には、放射線はほとんど出ません。

小線源治療では、放射線による副作用がありません。放射線の刺激で、排尿症状が出ることがあります。例えば、排尿しにくくなったり、尿の回数が多くなったり、急にトイレに行きたくなったりします。手術で見られるような尿漏れは、ほとんどありません。これら症状は排尿改善薬で対応します。次第に症状は軽減しますが、数年は持続することがあります。

前立腺がんは、手術、放射線外照射、内照射(小線源治療)と多くの治療方法があります。どの治療を選んでも、治療の効果はほぼ同じです。一方、入院期間や身体への負担、副作用に違いがあります。それぞれの治療の長所、短所を比べ、どの治療方法が良いか、主治医とじっくり相談してください。

身体負担少なく入院短期

(第4土曜掲載)

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
電話 088 (634) 6442
(平日午前8時半から午後5時まで)へ。